会員企業、大いに語る！

編集局インタビュー　⑮

―そばにいる頼もしさがありますー

大西　吉國（おおにし　よしくに）

ソラン北陸株式会社　代表取締役社長

大西社長のメッセージ

私達は、**<u>"常にお客様のそばにいて、当社及びグループ各社のソリューションを駆使しお客様の思い描くものを具現化いたします"</u>**を掲げ、これからも最適なサービスを提供してまいります。
技術の進歩と環境の変化が大きな IT サービス業界において、常に研鑽に励み、
お客様に満足のいただける IT ソリューションサービスをご提供してまいります。
（HP より）

大西さんのプロフィール

出身地：金沢市　　年齢：60 歳　　家族構成：妻、子供 3 人

北陸新幹線開通を見込んで金沢駅周辺ビジネス街が賑わう。そんな一等地の一角、フコク生命ビル７階にソラン北陸（株）の大西社長を訪ねインタビューをした。（以下は要約）

編集局　お仕事の内容を教えてください。
大　西　代表をしていますから最終的な責任者であることは勿論ですが、地域に根ざした会社としていくため、異業種交流会などに積極的に参加させていただいております。
力を入れていることは、「人を育てる」ということです。新卒を採用して、白紙の状態から、個別に丹念に指導していくことを基本としております。
当社の研修制度は、創業者が学校の教師だったということもあって、他の企業より充実していると思います。

編集局　事前に頂いた“お尋ね表”の中に「プリントクラブの仕掛人・・・」とありましたが？
大　西　十数年前、東京在勤時プリントクラブ試作機の開発と販売に携わった経験があります。
当時は 8 ミリビデオがブームで、観光バスに千円札を入れて 8 ミリから写真シールを作成してもらう機械を開発したのです。バス旅行帰りの暇つぶしに流行るかなと思ったのですが、全然ダメで中止になりました。
それから、街中にある証明写真撮影ボックスの形に変更して、300 円入れるとシールが出るようにしたんです。東急ハンズなどの売り場に置かせてもらってモニタリングしたり、デパートのバレンタインのチョコ売り場において無料でハートマークのシールをプレゼントしたりと、前よりは人気があったんですが、それでも売り上げは伸びませんでした。
ゲームセンターを運営する会社に版権を譲ることになりました。その会社はマーケットを若年層向けに戦略を絞り、社会的なブームになったのはご存知の通りです。
その時に学んだことは、「アライアンスを組んでマーケットを開拓する」ということでした。

編集局　御社の一押しは何ですか？
大　西　現在、県内の回転寿司コンベアメーカ様に対し、タッチパネル式オーダシステムを提供しています。県庁の並びにあるお店のタッチパネルはうちのですよ。間もなくオープンする近江町市場ビルの中にも入ります。
北陸の地域会社として地域発で全国へ展開できる商品を作っていきたいですね。石川県はニッチトップ企業が多いですから、われわれの IT 技術を組み入れて付加価値を上げて頂ければと思います。

編集局　久しぶりの金沢の印象はいかがですか？
大　西　金沢へ戻って、3年になります。子供たちがまだ学生なので単身Uターンです。
36 年間の空白は大きいですね。中々埋められないものを感じます。「故郷は遠きにありて思うもの・・・」ですね。
金沢に戻ってから、歴史に興味を持ちました。
金沢に住んでいる人より詳しいかもしれませんよ（笑）

編集局　ご趣味は何ですか？
大　西　以前は、登山が趣味で、北アルプスは殆ど登りましたが、最近は行っていませんね。
車の免許を持っていないので、金沢での移動は自転車か徒歩です。歩くことが好きなので全く不便は感じません。
歩くと色々なものが見えてきますからね。
映画も好きですね。先日、昭和 30 年代の映画を借りてきました。「ゼロの焦点」なんかを見ていると昔の懐かしい金沢の風景が見られますよ。

編集局　今後のビジョンをお聞かせ下さい。
大　西　会社は利益を出して税金を納めることで社会に貢献するものと思います。
個人的には、団塊の世代ですので、定年になってからの人たちのことを考えたりします。
「若い人間に頼らなくてもやっていける」という気概を持った人たちの多い世代です。
介護のマイレージなんてものがあっても良いんじゃないか、なんて考えたりするんですよ。お互いの「おくりびと」ってことです（笑）
いつまでも報酬を得られる活動をしたいですね。

編集局　最後に ISA へ一言お願いします。
大　西　まだ3年ですが、変化のある業界の割には、組織が固まっている感じがします。
業界にインパクトを与えるような組織であって欲しいと思います。
IT ビジネスクラブのようなものがいくつもあればいいのかな～
ウノケ電子時代のイノベーションが今は見られませんね。あの頃のマインドをもう一度思い出して欲しいですね。

＜編集局ブログ＞
　日本の大型コンピュータの歴史に関わられた一方で、プリクラの前身にも係わられたという経歴を聞かせて頂き、「先見の明」という言葉が浮かびました。
ハードウエア・ソフトウエア・経営・・・未来の IT 業界に必要なノウハウが全て頭の中に詰まっているようにお見受けしました。
こういう方が、街を歩いて何かに興味を持つと、新しいビジネスのアイディアが沢山出てくるのでしょうね～
プリクラや回転ずしのタッチパネルなど、子供から大人までが楽しめるモノづくりをされてきた背景には、「家族みんなが楽しめる」という家族想いの一面があるからでしょうか？
地域発全国第一号を楽しみに期待したいと思います。